

田舎のお餅でおもてなし

波賀支部老人クラブ連合会、高砂市と交流

11月22日（木）、市民センター波賀で波賀町と高砂市の老人クラブ連合会の役員が交流研修会を行いました。

高砂市と旧波賀町は「都市と農村の交流」を目的とした姉妹都市でした。両老人クラブ連合会では平成2年から途切れることなく、毎年交互にお互いのまちを訪れています。

今年は波賀が招待する

る年にあたり、役員で実行委員会をつくっておもてなしの内容を考えました。そして田舎の雰囲気味わってもらうと、豊作餅つき大会をすることになりました。

交流会当日は高砂のみなさんと一緒に杵と臼で餅をつき、栃餅やあんこ餅、おろし餅をふるまいました。



「特別な産業はなくても、餅つきで昔ながらの田舎の文化を体験してもらえれば」と大段幸成会長。高砂の人たちは、「初めての餅つきと心のこもったもてなしに感激した」と喜ばれていました。

今後とも高砂との縁が今日のお餅のように長く伸びて続いていきますように。

（波賀支部 平 有利菜）

高砂の人がついて、波賀の人がまぜる。そして、周りの人は歓声を送って応援

体験から学んだこと

千種小 点字体験教室

11月28日（水）、千種小学校では、ボランティア『点訳グループあい』の皆さんの協力により、4年生23名が点字体験学習を行いました。

初めて点字板や点筆を手にした児童は、ボランティアから点字を打つ時の注意事項を聞き、実際に点字で自分の名前を打ってみました。

また、家や学校など身近な所で思いつく点字について発表したり、盲導犬について質問しました。

「音声付の信号や点字ブロックがある所では、盲導犬（リン）が止まって教えてくれるので助かります」とグループのメンバーでもあり、視覚障がいのある高岸美鈴さん。

児童からは「盲導犬に出会ったら、なにかお手伝いしないで声とか

けたい」という意見なども出ました。

この学習が、目が不自由な人について考えたり、思いやりの心を育てる機会となることを期待しています。

（千種支部 小原志のぶ）



大島千秋さん（波賀町）に点字で作った名刺を読んでもらいました

は
が

ち
くさ